

令和6年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和6年 10 月 29 日

校番	202 127	学校名	広島観智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	全・定・通	本・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 客観的な自己評価の上、目標、指標、計画が設定されている。 ○ 学校生活・寮生活に関しては、多種多様な人とのコミュニケーション活動を通したリーダーとしての人格の陶冶に努めることの目標は適切である。 ○ 図書[人間基礎力(哲学、宗教、心理など)]と読書量が増加するような目標が設定できると尚良い。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指標に準拠し、適切に評価されている。 ○ いくつかの評価結果については、具体的な指標数値に対する達成状況を説明することで、評価がより客観的に説明できている。 ○ 定量的なものでなく、面談を重視し、教員(大人)との心の交流等を通して、個人のアイデンティティと他人のウェルビーイングの質的な対応をさらに充実させられると尚良い。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標に準拠し、適切に取り組んでいるが、SA や CAS をもう少し具体的な計画にふみこめると尚良い。 ○ 学校生活・寮生活では、活動的で個性的な生徒が多く生徒の個性を見ることができたが、こうした中でコミュニケーション活動のリードなど多くの教職員が生徒の主体性も尊重しながら有効的に機能されていた。 ○ 日本語力は、定量的な試験で図るのではなく、主体的な読書や校外(地域・他校)との交流(共同研究)などを充実させてほしい。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切であるが、例えば英語(日本語)能力の育成も具体的にどうするのか知りたいところである。 ○ すべての目標、指標、計画等に対するチェックはある程度行き届いているものと判断する。その際、可能なものについては数値目標の設定があった方がよい。数値的な目標設定は、必ずしもそれを超えることだけを目標とするのではなく、仮に数値結果が設定目標よりも低かったとしても、それに向けた取組としてどのような努力が払われたか、その目標を超えるためには何が必要か、またその目標数値を超えることがなくても本質的な目標が達成されているなどの分析があると、より良かった。 ○ 取組の分析が、目標1では、おもに定性的な評価が行われている。目標2と3では、おもに定量的な評価が行われている。分掌間で評価方法を検討し、バランスの取れた評価記述を心がけていただきたい。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価に基づいて適切な改善方策の検討がなされている。上げている改善方策をタイムラインに落とし込み、確実に実行すること。 ○ 以下の2点の改善が望まれる。 (1) 学習者像デザインと生徒指導規程の改定を関連付け、よりよい学校・集団・環境をつくりだすための契機とする。 → 両者間で齟齬が生じないように、生徒と学校関係者でよく話し合い、学校の教育理念について合意を形成することを期待したい。 (2) 中学生に向けて海外の生徒とオンライン交流会を授業活動として提供する計画が進んでいる。また、中期海外留学プログラムの成果を測り、効果的な方法を進める。 → これを契機に、IB 校らしい遠隔授業の姿を提案いただきたい。海外留学を補完したり、準備したり、デジタルでのコミュニケーションの経験を拡大する効果的なプログラムを開発していただきたい。 ○ 6年間かけての総合カリキュラムで、人間力育成に今以上に取り組んでほしい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校長のリーダーシップの元、新しい取組を着実に仕上げている。 ○ 全体的に目標が高く評価が厳しいような気がする。 ○ 以下の点が気がかりである。IB の学習者像に関する教師と生徒の評価がどのくらいずれているのかを精査し、次の指導に活かしていただきたい。「課題が残る」のは具体的にどういう点なのかを教員間で(生徒とも)共通理解し、普段の指導や活動をどのように変えていく必要があるかを議論していただきたい。 ○ リーダー育成は頭脳強化だけではなく、自分の時間が保持できるなど個人の自立性を伸ばす視点を広げてほしい。